

## 第32回都道府県対抗女子駅伝を振り返って

女子監督 林 裕樹(中央中学校教諭)

今回は実業団、大学生、高校生、中学生とバランスよくチームを組むことができた。レースでは、1区平井恵(キャノンAC九州)が粘りの走りを見せ、区間18位で集団の中でたすきをつないだ。2区以降、高野愛華、川上真琴の光陽中コンビが初出場ながら強気な走りを見せ、順位を上げたものの、大学生、高校生が思うような走りができず順位を落としてしまった。アンカーの松見早希子(第一生命)にたすきが渡った時には36位。前のランナーが見えない状況の中で、松見が区間14位のさすがの走りで、35位でゴールした。昨年の順位を5つ上回ったものの、目標とする20位代には届かなかった。

現在の福井県チームは、若返りを図っている途中ではあるが、松見、平井の実業団選手が伸びてきている現状を考えると、若い高校生、大学生が順調に育ってくれば、ステップアップしていく可能性が十分にあると思われる。大学1年生の谷町由理子(城西大学)、齋藤菜摘(名城大学)が大学生のエースとして活躍し、真柄碧(美方高校)、野原千里(美方高校)が高校生の黒柱として、来年こそは活躍して入賞への足がかりを作りたいと思う。そして、松見、平井には日本を代表するランナーに育って、今後も地元に貢献してくれることを切に願っている。

今後、中・高生のさらなる強化、選手発掘、そして実業団、大学との連携強化、スタッフ陣の充実など課題は山積しているが、「福井国体までに入賞」を目標に、歩みを止めることなく強化を続けていきたい。

最後になりましたが、福井陸上競技協会をはじめ、関係者の方々には、物心両面にわたってサポートをしていただき本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。